

守山企業景況調査報告書

(第12回)

平成24年7月～平成24年9月期 実績

平成24年10月～平成24年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 24 年 7 月～平成 24 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	20	100.0%
卸売業	6	5	83.3%
合計	71	67	94.4%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 24 年 7 月～平成 24 年 9 月、見通しを平成 24 年 10 月～平成 24 年 12 月とし、調査時点は平成 24 年 9 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 24 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 24 年 7 月～9 月期の調査結果では前回調査に比べて、売上高 DI、業況 DI、採算（経常利益）DI と資金繰り DI が主要 4 指標全てで上昇という結果になった。また、10 月～12 月期見通しでは、業況、採算（経常利益）、資金繰りが下降、売上高は横ばいとなっている。

<業況>

平成 24 年 7 月～9 月期の業況は▲21.5 と約 10 ポイント上昇した。業種別に見ても、全ての業種で 10 ポイント以上の上昇となった。

10～12 月期の見通しでは、逆に▲35.9 と 14.4 ポイントの下落になっている。業種別でも、全ての業種でマイナスの見通しとなっている。

<売上高>

売上高 DI は▲29.9 と前回調査に比べて 14.4 ポイント上昇した。業種別では、小売業、建設業、サービス業、卸売業で上昇し、製造業は下降した。

10～12 月期見通しは、▲29.9 と 7～9 月期実績と同じ数値になった。小売業とサービス業は上昇見通し、製造業は横ばい、建設業と卸売業はマイナス見通しと業種ごとに異なる見通しとなっている。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲37.3 となり、12.7 ポイントの上昇となった。業種別に見ると、建設業、サービス業、卸売業は上昇し、小売業と製造業はは下落となった。

10～12 月期の見通しは、▲43.3 と 6 ポイント下降になっている。建設業で上昇見通しとなっているものの、小売業、サービス業、卸売業は下落見通し、製造業は横ばい見通しとなっている。

<資金繰り>

資金繰り DI は▲9.8 と前回調査に比べて 6.1 ポイント上昇している。業種別では、建設業、サービス業、卸売業の結果がよくなっており、小売業と製造業は悪化している。

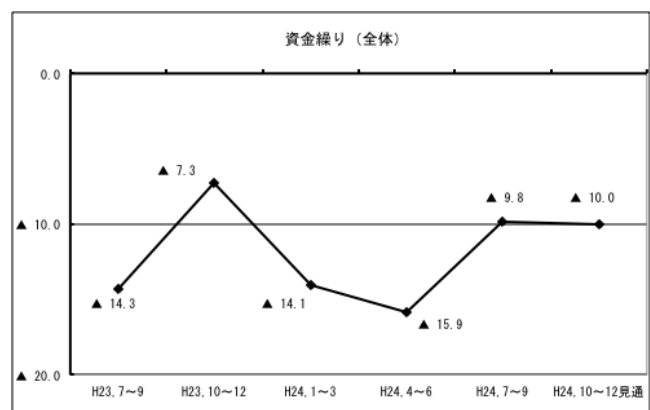
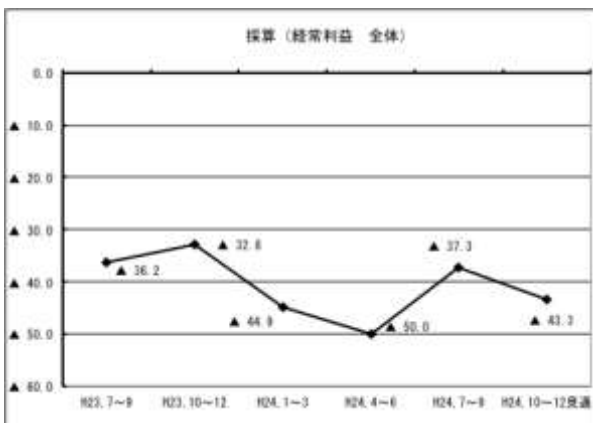
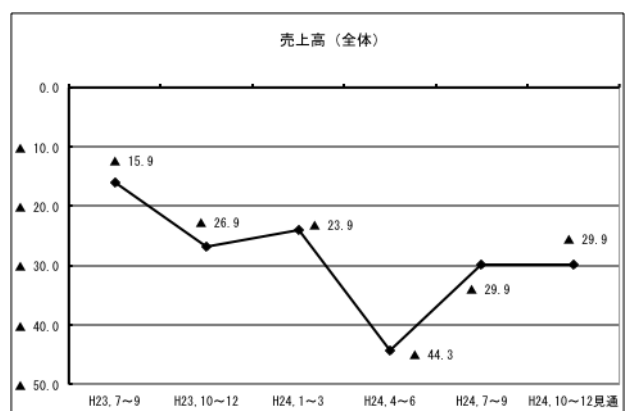
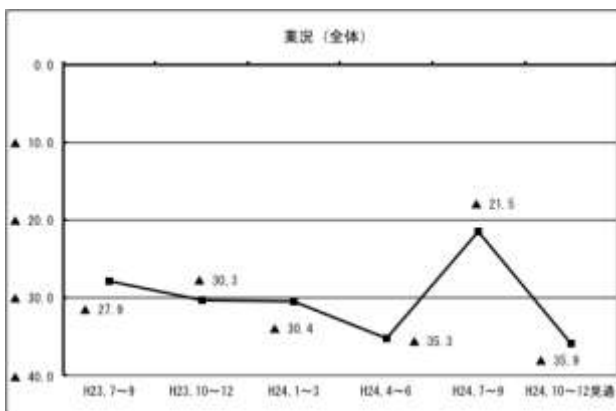
10～12 月期見通しは、▲10.0 とわずかに下降している。業種別では、小売業、建設業が好転、製造業、サービス業、卸売業は悪化となっている。

<その他の意見>

- ・早くデフレを脱却して欲しい。
- ・今の経済情勢よりも、自身のやる気の問題。
- ・早く経済状態が上昇して欲しい。
- ・報道等の色々な情報に惑わされているのではないか。
- ・消費税増税反対、TPP 反対。
- ・政治不安定＝経済不安定。日本を大きく変えられる政党に期待したい。
- ・少子高齢化が進み経済の成熟期から衰退期に入って内需が見込めないので、65 歳以上の富裕層の消費需要刺激策が必要ではないか。
- ・政治が経済の足を引っ張っていることが最大の不況原因ではないか。
- ・激しく量販店へ客が流れている。

<対中国、対韓国向け輸出入での影響>

- ・中国製品の輸入遅れあり。（小売業）
- ・中国関連の引合いが少なくなった。（製造業）
- ・（間接的に）対中国向け製品の注文がなくなった。（製造業）



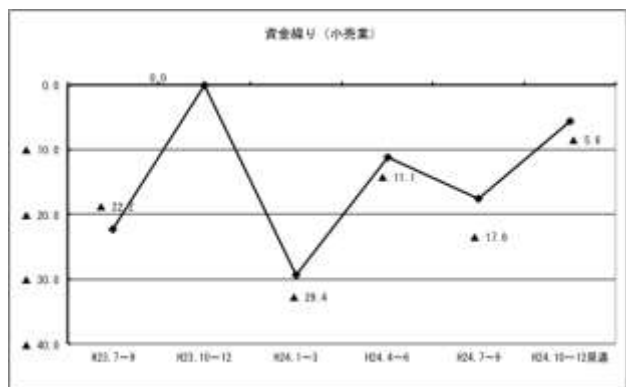
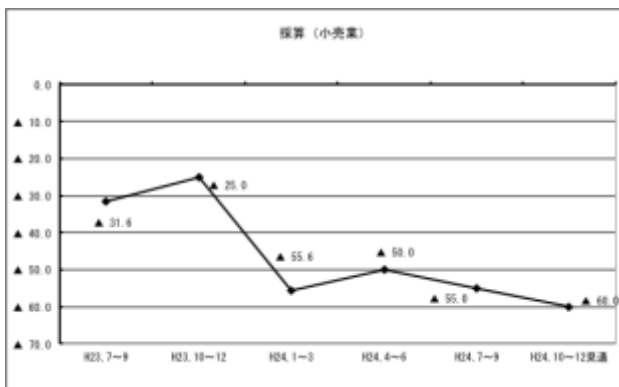
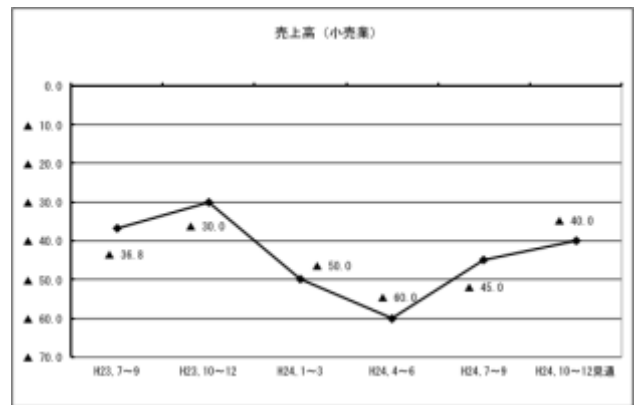
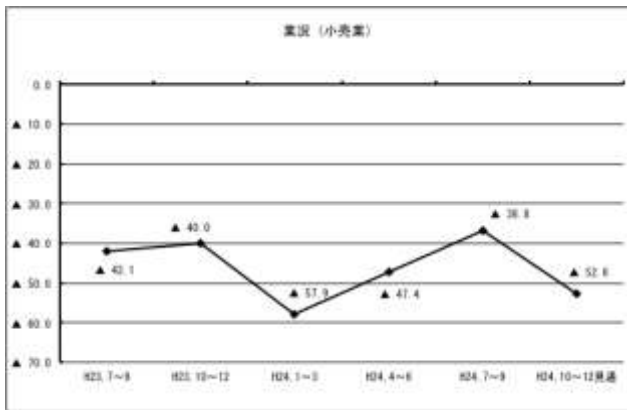
小売業

小売業の7～9月期業況DIは▲36.8と前回調査に比べて10.6ポイント上昇した。これは過去1年で最も高い値であり、2四半期連続で上昇したことになる。個別の事業所では、業況がよくなったという回答が一部にあるものの、約半数が悪くなったと回答している。また、10月～12月期見通しは▲52.6と大きく後退している。

売上高DIは▲45.0とこちらも前回調査よりは値が良くなっている。過去1年では前回調査の▲60.0が最低値であり基調としては上昇に向っているようである。このことは10月～12月期の見通しが▲40.0となっていることからもうかがえる。

採算（経常利益）のDIは、▲55.0と前回調査の▲50.0から5ポイント降下した。平成24年に入ってから▲50から▲60の間で往来しており、売上高のDIと採算は連動していないようである。10月～12月期見通しでも▲60.0となっており、平成24年はこの水準で推移しそうな勢いである。

資金繰りDIは、▲17.6であり前回調査の▲11.1から下落した。資金繰りDIは、他の主要3指標の動きと連動していないかのように推移しており、0から▲30の間を上下しているようである。10月～12月期見通しでも▲5.6であり、同様の動きの一環と見ることができる。



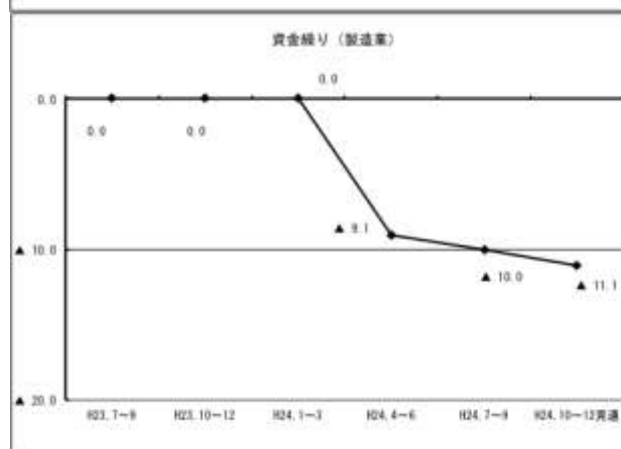
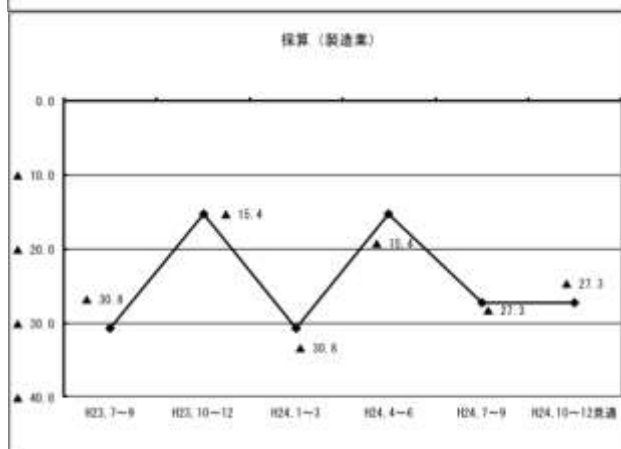
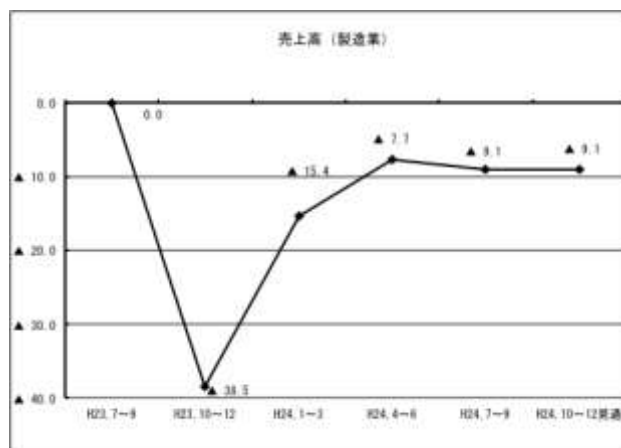
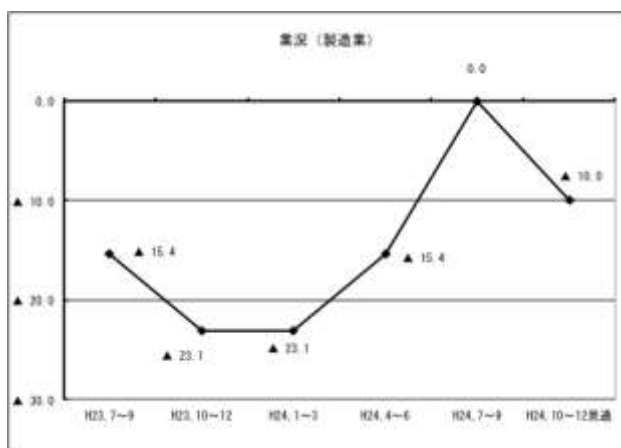
製造業

製造業の業況DIは0.0と前回調査に比べて15.4ポイント上昇した。これで2四半期連続の上昇となった。また、平成24年1月～3月期に▲23.1となったのが最低値で平成24年に入って順調に値が回復している。しかし、10月～12月期見通しは▲10.0と値が下落しており、見通しが明るいとは言いきれないのも事実である。

売上高DIは▲9.1となり、前回調査の▲7.7から1.4ポイント降下した。過去1年を見ると平成23年10月～12月期の▲38.5を最低に値は回復しているものの、プラス領域まで到達する勢いは見られない。10月～12月期の見通しも▲9.1であり、そのことを物語っている。

採算（経常利益）DIは▲27.3となり前回調査の▲15.4に比べると11.9ポイントのマイナスである。業況や売上高のDIが0付近にあるのとは対照的に採算DIはマイナスの領域から脱する気配を感じない。10月～12月期見通しでも▲27.3であり、売上の割に利益の出にくい状態が続いているようである。

資金繰りDIは▲10.0と前回調査の▲9.1より0.9ポイント下った。資金繰りDIは過去1年を見ても0付近にあるので、大きな動きを見せていない。しかし、前回よりも値が下ったことと10月～12月期の見通しが▲11.1となったことで、少しずつ資金繰りが悪化しているように見ることができる。



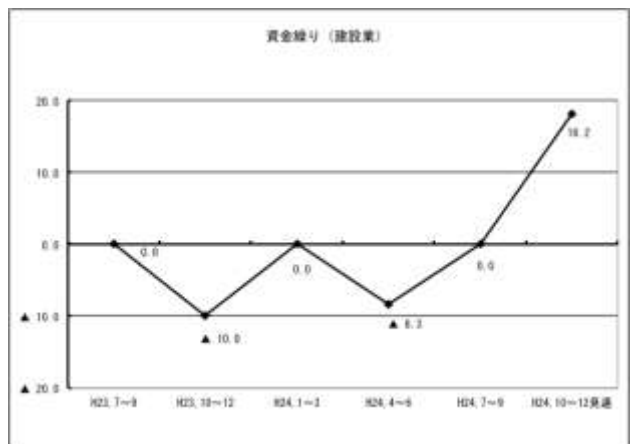
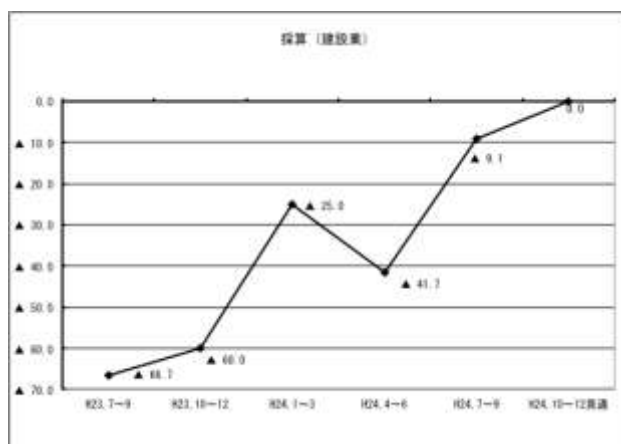
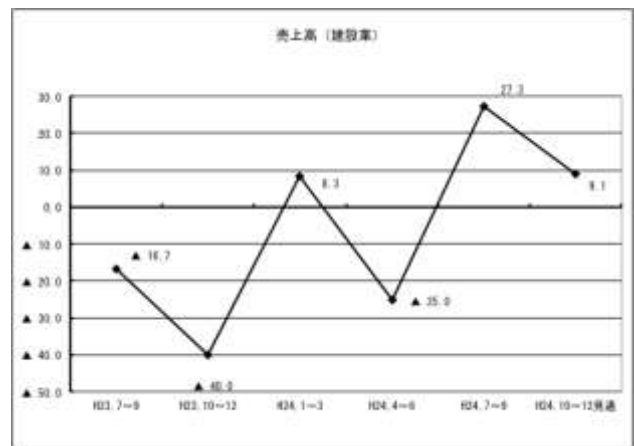
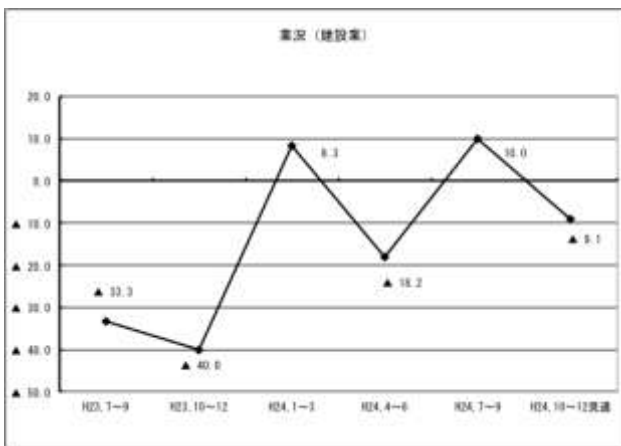
建設業

建設業の業況DIは10.0とプラスの領域になった。前回調査が▲18.2であったので28.2ポイントの上昇である。過去1年を見ると、上下を繰り返す傾向があるようなので、今四半期は上昇の順にあたるようである。また、平成24年に入ってから8.3、▲18.2、10.0と0をはさんで上下しており、業況が著しく悪いということはなさそうに見える。10月～12月期見通しでは▲9.1で、上下運動の下の順にあたることわかるが、下落幅が小さくなっている。

売上高DIは27.3と前回調査の▲25.0から一気に52.3ポイント上昇した。過去1年の傾向をみると、上下を繰り返しながら右肩上がりになっている。10月～12月期見通しも、9.1となっており、値自体は下るものの、プラス領域を確保しており、右肩上がり傾向に変わりはないようである。

採算（経常利益）DIは▲9.1で前回調査の▲41.7に比べて32ポイントの上昇である。過去1年を見ると平成23年7月～9月期が▲66.7でそこから回復軌道を見せている。10月～12月期見通しは、0となっているのでこの軌道上にありそうである。

資金繰りDIは0となった。前回調査の▲8.3から戻した形になっている。資金繰りDIは過去1年0付近にあることから悪化傾向はなさそうである。10月～12月期は18.2とプラスになっていることを見ると、資金繰りは良くなる傾向にありそうである。



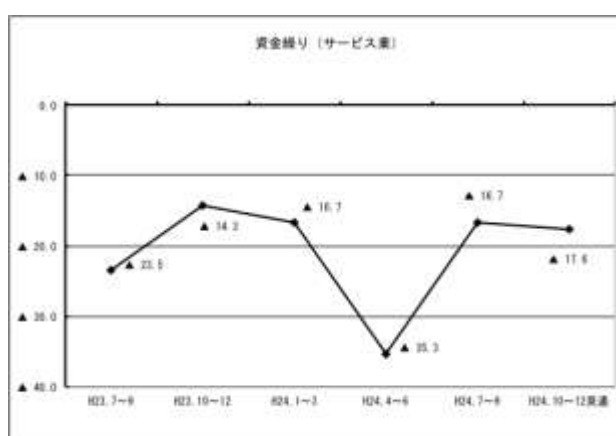
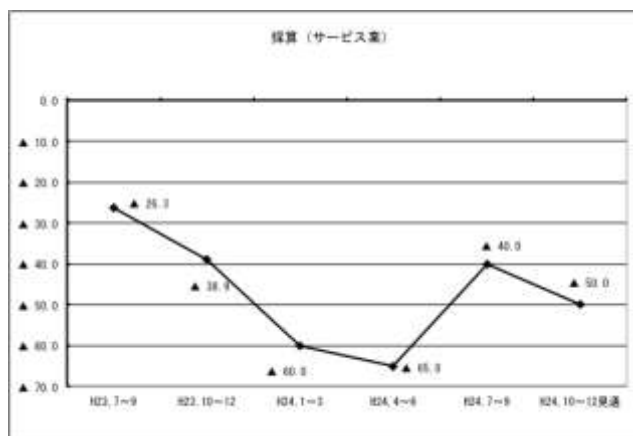
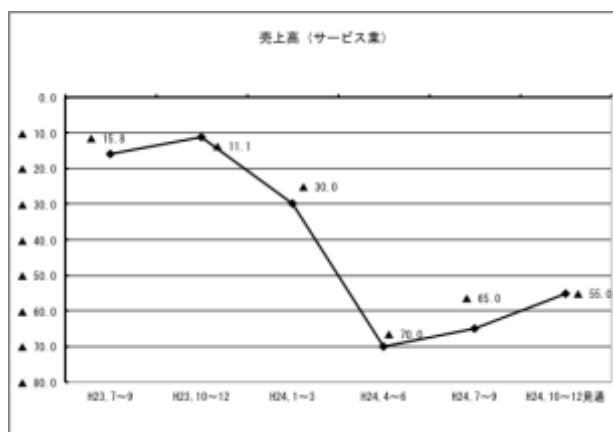
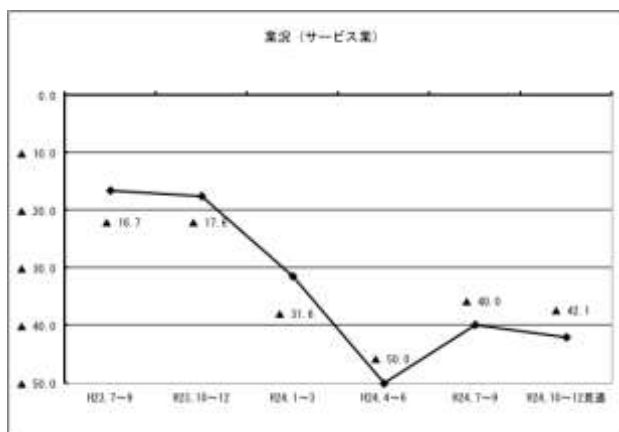
サービス業

サービス業の業況DIは▲40.0と前回調査と比べて10ポイントの上昇であった。過去1年を見ると前回の平成24年4月～6月期が最も低い値であり、それに向けて下降を続けていたのが、7月～9月期は反転を見せた。10月～12月期見通しは▲42.1と再び下降線を描いている。

売上高DIは▲65.0となり前回調査の▲70.0から5ポイント上昇した。売上高DIも過去1年では前回調査が最低値であり2四半期連続で下落した数値が上昇に転じている。10月～12月期見通しも▲55.0と上昇しており、わずかずつではあるが回復の基調にあるように見える。

採算（経常利益）DIは▲40.0で前回調査の▲65.0から25ポイント上昇した。採算DIも業況や売上高と同じく前回調査の▲65.0を最低にそれまでそこに向けて下り続けていたものが上昇に転じている。しかし、10月～12月期見通しは▲50.0と下降になっており、採算については回復トレンドに入ったと言い切れる状態にないと考えられる。

資金繰りDIは▲16.7で前回調査の▲35.3から18.6ポイントの回復である。過去1年を見る限り、前回調査の▲35.3が特徴的に低い値を記録しており、今回調査の▲16.7は通常値に戻ったかのように見ることができる。10月～12月期見通しも▲17.6であるので、過去1年の推移と同等の動きであるように思われる。



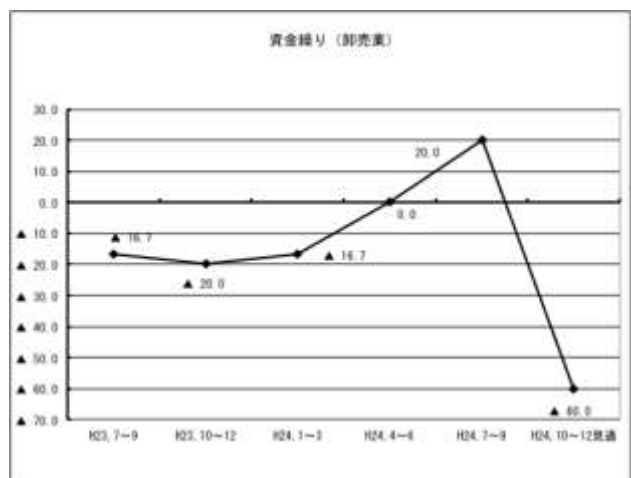
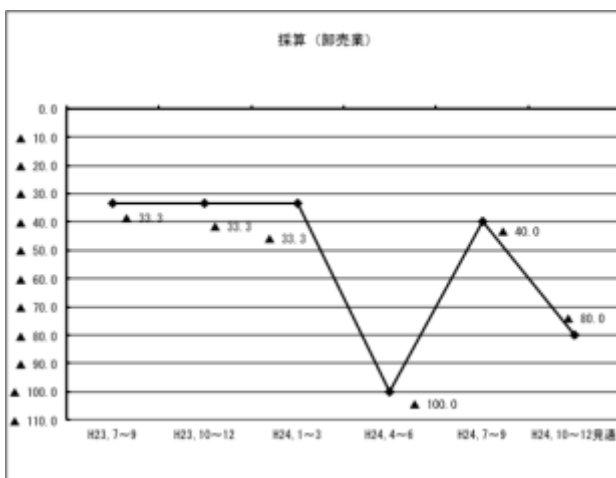
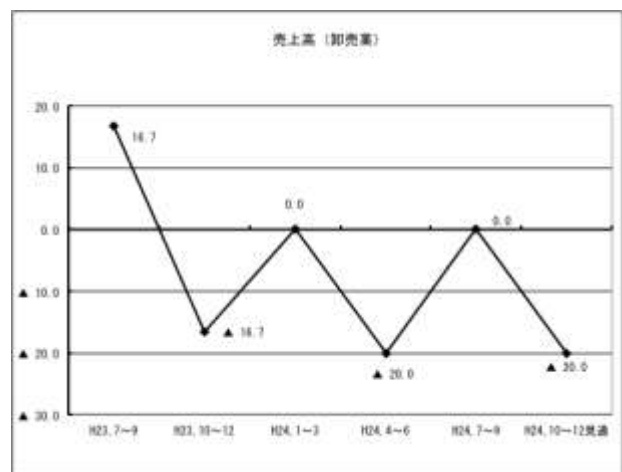
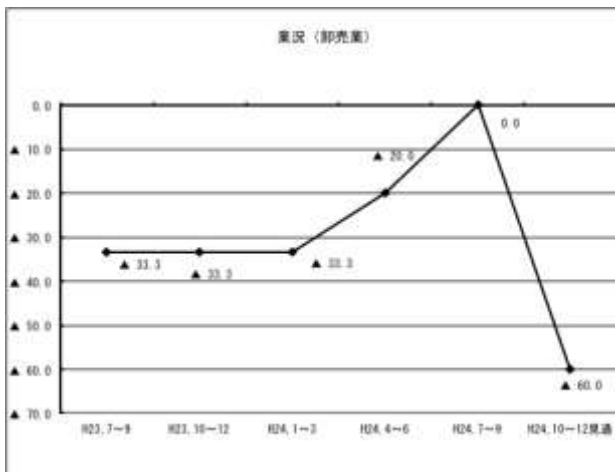
卸売業

卸売業の業況DIは0.0と前回調査より20ポイント上昇した。前回調査に続いての上昇である。しかし、10月～12月期見通しが▲60.0と極端に落ち込んでおり、業況の回復を見たものの、見通しは非常に暗いものになった。

売上高DIは0.0と前回調査の▲20.0から20ポイント回復した。卸売業の売上高DIは0を中心にプラスマイナス20程度の幅で上下する傾向がここ1年続いているので、今回もその動きを継続した形になった。10月～12月期見通しでは▲20.0であるので、やはり過去1年と同じような動きであるように思われる。

採算（経常利益）DIは、▲40.0となり、前回調査の▲100から60ポイントの上昇となった。前回調査の▲100という値が極端に低いので60ポイントの上昇もうなずけるものであるが、10月～12月期見通しが▲80.0となっているので、卸売業の採算は相当に厳しい状態にあると考えざるを得ない。

資金繰りDIは20.0と前回調査の0から20ポイント上昇した。2四半期連続の上昇であり、プラス領域にあることから、資金繰りは悪くないように見える。しかし、10月～12月期見通しは▲60と一気に80ポイントの下落となっているので、予断を許さない。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7月～9月 期動向	10～12月期 見通し	7月～9月期 動向	10～12月期 見通し	7月～9月期 動向	10～12月期 見通し
全 体	▲21.5	▲35.9	▲29.9	▲29.9	▲37.3	▲43.3
小売業	▲36.8	▲52.6	▲45.0	▲40.0	▲55.0	▲60.0
製造業	0.0	▲10.0	▲9.1	▲9.1	▲27.3	▲27.3
建設業	10.0	▲9.1	27.3	9.1	▲9.1	0.0
サービス業	▲40.0	▲42.1	▲65.0	▲55.0	▲40.0	▲50.0
卸売業	0.0	▲60.0	0.0	▲20.0	▲40.0	▲80.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7月～9月 期動向	10～12月期 見通し	7月～9月期 動向	10～12月期 見通し	7月～9月期 動向	10～12月期 見通し
全 体	▲10.4	▲9.1	▲24.2	▲22.2	▲22.6	▲9.7
小売業	▲15.0	5.3	▲25.0	▲25.0	▲37.5	▲12.5
製造業	36.4	36.4	▲18.2	▲18.2	9.1	18.2
建設業	9.1	▲9.1	0.0	0.0	▲9.1	9.1
サービス業	▲40.0	▲35.0	▲42.1	▲30.0	▲36.8	▲31.6
卸売業	▲20.0	▲60.0	▲20.0	▲60.0	▲20.0	▲20.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7月～9月 期動向	10～12月期 見通し	7月～9月期 動向	10～12月期 見通し	7月～9月期 動向	10～12月期 見通し
全 体	▲9.8	▲10.0	▲5.9	▲2.0	0.0	2.1
小売業	▲17.6	▲5.6	0.0	▲10.0	8.3	0.0
製造業	▲10.0	▲11.1	10.0	10.0	10.0	10.0
建設業	0.0	18.2	▲20.0	0.0	▲10.0	0.0
サービス業	▲16.7	▲17.6	▲7.1	▲6.7	0.0	0.0
卸売業	20.0	▲60.0	▲20.0	0.0	▲25.0	0.0

過去からの動向

